

令和5年度  
埼玉県技術・家庭科  
懇話会

# 会報

第45号

令和6年4月30日発行

## 技術・家庭教育の変遷と今を活かす

埼玉県技術・家庭科懇話会  
会長 羽島隆夫

本年1月1日、能登半島を震源とする大地震が発生しました。新年が始まったばかりの時に、このような大災害が起きることは誰も予想していなかったと思います。能登半島という地勢は、東日本大震災とはまた異なった新たな対応が求められる地域であり、被災された方々の今後の生活を思うと心が痛みます。

さて、平成28年(2016年)に野口浩会長の下、第55回関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会(関ブロ)が埼玉県で開催されました。研究テーマは「次代を担い、社会を生き抜く力を育む学習指導の研究」でした。各地区で精力的に研究に取り組まれ、素晴らしい成果を挙げました。

あれから10年、時は流れ、社会も大きく変化しました。誰も予想していなかった「新型コロナウイルス」の蔓延は技術・家庭科の指導にも様々な対応が求められた事と思います。そのような中、今、教育に求められている事は何か、そして将来を生き抜くために、近未来を見据えて目の前の子も達にどのような力を付ければよいのか等々、現実的な課題が山積しています。令和7年に行われる第65回関ブロ埼玉大会はそのような中での大会となり、先生方には様々なご苦労が山積の事と思います。頑張ってください。先生方の頑張り、努力は子ども達の為と共に自己を磨く力になり、今後の様々な教育活動のエネルギーにもなります。大変ですが頑張った努力は必ず報われます。健康には十分留意して研究に取り組んで下さい。そのような先生方の頑なりに「懇話会」として少しでもお役に立てればと、金銭面での支援をさせていただきます。大会まで残り1年少々と限られた時間ですが最後の頑張りです。

※ 今の時代、教育活動でも、研究活動でも使えるものは何でも積極的に活用してみましょう。AI、チャットGPT然り、思考の行き詰まり、活動の行き詰まりは様々な情報を収集・活用する中に小さなヒントとして見えて来るものです。

## 研究会会長あいさつ

埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会  
会長 安藤義仁  
(蓮田市立黒浜中学校長)

埼玉県中学校技術・家庭科懇話会の羽島隆夫会長様をはじめ会員の皆様方には、物心両面からの御理解・御支援いただき衷心より御礼申し上げます。コロナ禍の爪痕として分断された人と人の繋がりへの復旧や、研究体制の再構築・世代交代への対応などが全国的に課題となっておりますが、本研究会も数年をかけて体制の復旧に注力し、ようやく状況の改善が見えつつあります。県内の創造ものづくり教育フェアに続いて、全日中の全国フェアも参集型で行えるようになりました。働き方改革に伴う集会制限等はまだまだ続きますが、知恵と創意工夫を結集して対応し、解決を目指します。

現在、関ブロ埼玉大会を令和8年度に控えて、「未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する学習指導の研究」を研究主題とし、他都県等の状況や各ブロック大会の開催方法に関する情報収集を含めて、準備を進めています。記録から過去のタイムラインと比較してみますとかなりの遅れがありますが、ようやく研究のまとめと発表に向けた準備が加速できそうな見通しができつつあります。毎年2月開催の教員研究発表会にて、昨年度は技術の渡邊調査官、本年度は家庭の熊谷調査官に、全体でご講演をいただいた後、各分科会の研究主任・副主任も参加して研究の方向や流れについてご指導をいただくことができました。

懇話会の諸先輩方からいただける助言・叱咤激励・財政的なご支援に感謝し、その期待に添えるよう会員相互の繋がりを強固なものにして参ります。また、これまで先輩方が力を注いでくださったように「関ブロの灯を絶やすな」を合言葉にして、取り組みの成果を未来へ引き継ぐようにして参ります。折に触れて懇話会様との関わりや入会案内等の情報提供もさせていただいているところです。

引き続き、当研究会への変わらぬ御理解、御支援、御厚情と共に、御指導、御示唆をいただけますよう御願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。